

暦の上では秋…とはいえ、暑い。体調管理が難しい気候で、少し心配です。

正しさも大事だが優しさがもっと大事

先日、5年生と一緒に「水俣に学ぶ、肥後っ子学習」に参加しました。熊本県は、日本四大公害病の一つである水俣病が発生した地域でもあり、その意味では水俣は公害病を克服することを命題としながら、環境立国を目指す日本においては先頭を走る地域です。その現地水俣で学ぶこの学習は、大変意義があることです。

その中で、水俣病の伝え手の方からのお話を聞く機会がありました。インタビュー形式で進んだその講話は、非常に深く考えさせられるものでした。そして、そのご講話の感想として語ったみどりさん（仮名）の言葉が印象的でした。

「立場が違う人同士が理解し合い、差別をなくしていこうとする努力に学びました」

実は、今回の伝え手の方は、水俣病原因企業であるチッソの元従業員の方だったそうです。

私は天草（水俣とは海を挟んだ対岸ともいえる場所）出身です。だから、私も、小学生の時にこの水俣病のことを割と深く学んだつもりでした。ただ、その実は「水俣病の原因は有機水銀で、その原因をつくったのがチッソという企業」という表面的なものだったことに気づかされます。伝え手の方のお話では、当時のチッソという会社が、経済の観点からも、雇用という観点からも事実上水俣を支えていた、とのこと。そして、チッソに入社することが夢だった、と語られたのです。

当時の水俣の人口は5万人を超え（現在約2万3千人）、市勢は拡大の一途を歩んでいたとのこと。そして、チッソがなくてはならない企業として、水俣を潤していたという事実。

そうすると、チッソが減速することは水俣の減速と同義となります。このような背景があり、公害病の原因企業であるチッソを擁護する人がいたり、水俣病で現に苦しんでいる人たちが逆にいじめの被害にあうという事態が生まれてしまったりしていたのです。

事実は、深く複雑です。

一方からの正しさでは物事は理解できない。これは、正しさを否定するものではありません。ただ、正しさには脆弱性がある。

我々は、つい自分の正しさを唯一の解として押し通そうとする場合があります。そして、ゼロサムゲームをたたきつけてしまいがちですね。こちらが正しいのだから、あちらは正しくない。二項対立的な考え方で、論破を目的とした議論がまかり通ってしまう。これでは、どこまで行っても平行線です。

水俣での学びは、このような無益な議論の解消にも、光を当ててくれていました。「もやいなおし」という言葉で表現されるその後の活動は、自分とは逆の立場の方々の声を聴き、自分たちの正しさを押し付けるのではなく、相手の思いを受け止めるという活動。自分のやり方で押し通すのではなく、他者のやり方に寄り添う。もちろん、他者の靴を履くわけだから、本当に理解できるわけではないかもしれないのだけれども、そこにはのやかに漂う優しさを受け止めた他者は、多分、心を開いていったのではないかな。そんな「もやいなおし」の心のもちようを学んだからこそその感想が、「立場が違う人が理解し合い…」。多様な社会に生きること、向き合うことへの学びを表現したその深い気づきに、私は心が揺さぶられました。